

10/28-11/09

松：現行ルールでは
「同順位が複数出た場合は、同順位者を繰り下げた順位までの平均点とする」とあります。
例えば、30位の選手が5人いた場合、その5人の得られるポイントは、同順位者を繰り下げた平均値になるので、各選手とも32位のポイントとなります。
たまたま同順位者がいたら、獲得ポイントが減少することになってしまうのでは？
もっと上位でこうなった場合は、世界戦の選抜にも影響があるかもしれませんね。
まあ、同点同順位になることは少ないでしょうが…。
なので、30位の選手が5人いたら、5人とも30位のポイントがつくように、上記ルールの文章を削除し、
「同順位者が複数出た場合は、その順位のポイントが全員につく」を提案します。

高：30位は30位ですから 平均点でよいのではないですか？
又、31位～34位の点数が配分されないのもおかしいと思うのだが。

ルール改正に対して。
昨今ハングシリーズ大会も参加者が固定化しているように思えます。
又、常に上位選手は常に参加できる環境を作れる状態にあるように思えます。
成立しないと点数が付かない事をなくすため、ヒート制の導入は如何でしょう。
これを強く要望します。
ヒート制にした場合のポイント計算は今のままでは成り立たなくなります。
条件等に付いてはREAC2003にて反映されています。
但しシード係数が反映されていません。
しかし、これも数値を入れることにより反映することが出来ます。
一日のポイント計算で
仮に大会が7大会 平均4日×7=21日
半分の10日間のポイントで年間トータルとする
ある国の参考です。

松：ちょっと説明不足だったかもしれません。すいません。
「同順位が複数出た場合は、同順位者を繰り下げた順位までの平均点とする」とあるので、30位が5人いた場合、これを順次繰り下げて、仮に30位～34位までとし、その平均点が与えられることになるので、実際には32位のポイントが5人に付与されることとなります。
もちろん、その次順位は35位なので、そのポイントが付与されることとなります。
繰り下げなくてもいいのではないのでしょうか？ということですが。

繰り下げると、29位の選手と、30位の選手5人とのポイント差は大きくなり、逆に、35位の選手と、30位の選手5人のポイント差は小さくなります。
同じ順位に選手がいるほど、この傾向が強くなります。
もし、30位の選手が10人いると、全員に付与されるのは34位のポイントです。
同順位の選手全員に30位のポイントを付与しませんか？ということですが。
もちろん、次順位の選手は、その順位に対するポイントになります。

さて、ヒート制についてですが、確かにメリットもあると思います。
が、デメリットのほうが少し大きいのではないのでしょうか？

砂：同順位のポイントの件は、どっちでもいいと思うんだけど、現状のルールの意図を考えると平均点のままの方がいいんじゃないかと思います。

実際、上位の選手の点数がまったくの同点になることは稀で、同順位になるのは下位の選手に多くなると思います。
例えば、50人参加の大会で1本成立DQ1.0の場合でぶっ飛びが15人いたとすると、

平均点の規定を撤廃するとその15人が35位のポイントをもたらえることになります。これって、ちょっと得かもしれません。似たような条件でもぶっ飛びが5人だとぶっ飛んだ5人は45位のポイントになります。あんまり自信はありませんが、平均点の規定は残しておいていいと思います。

ヒート制の導入に関しては、何人かのパイロットからも要望というか、ヒート制にした方が大会に参加しやすいのでは？といった意見を聞きました。単純に何本かのフライトの合計点数で順位を決めるのだと思うのですが、所長やマツは、実際どういったヒート制を考えているのか教えてください。世界戦選考に適すかどうかは置いておいて、HG競技人口を増やす、という考え方からすればヒート制の導入に賛成します。とりあえず、今年の結果からシュミレートしてみてもどうでしょう。

もうひとつ、去年1度決まったけど見直された距離パラメータの変更を来年から実施した方がいいかと思います。現在の30kmから40kmへの変更を提案します。現状ではミニマム距離（6km）とノミナル距離（30km）の差が小さいために、半数近くがぶっ飛んでしまうような日でも半数が40kmくらい飛べればしっかり点数がついてしまうし、8割方がぶっ飛んでしまうしょぼい日でも数人が40km近く飛ぶと意外に点数がついてしまっています。タスク距離のパラメータを40kmにすれば、ぶっ飛びの多い日の点数（DQ）が低くなるのですが、その方が妥当に思えるのですがいかがでしょうか？

松：参加した選手がちょっと得するくらいは良いのではないですか？みなさん苦労して参加しているんですから。損をする必要は無いと思いますが…。

で、ヒート制に関しては…競技人口増えるの？という疑問がありますが、合計点数だけではないようにしたほうが良いと思います。いくつか案はありますが、まだぼんやりしか考えてません、すいません。ただ、個人的にはヒート制には反対なもので。パラメータ変更に関しては、意義はありません。ノミナルディスタンスはもう少し大きくても良いと思います。

松：砂間委員と2人でルール変更について話合いました。以下の項目について、意見を得たいと思います。

1. 来年の集計ソフトおよび計算式に関して。
引き続き来年もGAP2002を用い、
ダウンローダーとして、DumpGPS、
集計ソフトはFSを用いる。

↓
これに伴い、集計時における距離の計測方法が若干変わります。
WPのシリンダー外縁で距離を測定することになります。

2. ミニマム距離に関して。
EJC2日目でもあったようなことが起きてしまうので、
ミニマム距離を3kmにして、6km以下は距離得点を50%減点にする。
ただし、LD可能な場所がある場合はその限りではない。とする。

↓
テイクオフ6km円内でLD禁止の場所を明確に規定する必要性が生まれるが、
ぶっ飛んだ選手の飛行距離がミニマム距離まで引き上げられることによって
ディスタンスクオリティが上がってしまい、
ぶっ飛んだ選手の得点が上がることを防ぐ。

3. パラメーターに関して。
距離の計測方法が若干変更してしまい、
WP1つごとに800m縮小されることを考慮し、
ノミナルディスタンスを当初の40kmではなく、
35kmにする。その他のパラメーターは変更しない。
4. 同順位のポイントの件に関して。
同順位の選手を繰り下げて平均点とするという文章を削除。
5. ヒート制に関して。
単純にタスク点数を加算するだけでは良くなさそうという共通の見解に達した。
いくつかの案は出たが、具体的には…。検討課題とする。

高：ソフトの件
FSは未だ開発途中にていつ何が起こるかわかりませんので「同様の物」を入れておく。
ログDLソフトは幾らでもありますので

パラメーターの件
ゴール人数30%に上げる。
ミニマム距離は変更なし6km
何故全員に点数を付ける様にしたのか?初心に帰って下さい。

同順位に対して
GAPシステムを取り入れているのに逆行している。
ならば日本独自のシステムを作るべきです。

ヒート制に対して
先日一部の選手と話す機会がありました。
取り入れには賛同するもやはりポイント計算をどうするか
これが出来ない内はむりであろう
パラで取り入れているところがありますので是非参考にして作ってみて下さい。

松：パラメーターの件なんですが、ゴールを30%に上げる理由はなんでしょう？
ちょっと気になったもんで。

ミニマム距離はもうちょっと検討したほうが良さそうな気もしますが、
その後の話はちょっと混同されてませんか。
大会ごとに得点はGAPにて計算されて順位がつきますよね。
その順位をもとにして、ランキングをつけるためにポイントを計算します。
全員に点数をつけるようにしたのは、
後者のポイントにする時の計算式だったはずで、
GAPスコアリングシステムとは全く関係がないと思います。

さて、その際に考慮したのは、
「大会に参加したけどポイントがつかなかった」→「参加した意味が無かった」
というのを無くすためだったと記憶しています。
下位でもきちんと評価しようという事だったはず。
議題のひとつに上げている文面があると、評価できていないのでは?と思いました。
大会の順位はGAPにて決定しますが、
その後ポイントに換算する際の、
競技委員会で決められている計算式に当てはめる時にこの文面が利いています。
順位に応じたポイントが得られていないのではないのでしょうか？
GAPシステムとはまったく関係ないと思いますが…。

で、ヒート制の計算式はいくつか考えてみています。
が、どれが良いかをどうやって評価すればいいですかねえ…？

高：ソフトの件は了解。但し柔軟に出来るように。

パラメーター30%の件
いざ今年の大会を見ますと タスクは軽く30kmを超えて40km前後になっています。
厳しい条件の時は別として
ゴール者が多数出て居る時は 軽く20%を超えています
超えすぎて逆に1000点付かないときが多々あります。
3個位シュミレーションして見ましたが何ら問題なく点数も上がります。
実勢を考えてここは30%とした方が良いと思う次第です。

GAPの件

当方は、上位点数採用は反対です。
何故なら 同順位と次順位の差が開くからです。
つまり次順位の選手に対してのやる気を起こさせる為にあるわけですから、
上位との差は近いが下位と差は大きいでは不公平で有るのでは？
つまり同順位選手と次順位選手の差が大きくなるからです。
これ矛盾していませんか？

ヒート制

色々選手からも意見が出ているようです。
次年度採用は難しいでしょう
でもいずれ何らかの制度を作ったほうがよさそうです。。
2009年度はしっかりシュミレーションをして見るべきです。

松：ミニマムは6kmでも良いと思うのですが、ノミナルは35kmにしませんか？
あと、ひとつ疑問があるのですが、
ゴール人数が多すぎて1000点つかないことなんてあるのですか？
DQを下げる要素は何も無いと思うのですが…。

それから、同順位者と次順位者の差が大きくなるという話ですが、
同順位者と前順位者との差が大きくなるのは目をつぶれという事でしょうか？
順位に相当するポイントを得られないのはおかしくないですか？と思っています。
次順位者は、その順位のポイントを得ているので、差が大きくなろうがなんだろうが
文句言う権利はないでしょう。
同順位者がいるだけで、ポイントが減らされるのはどうかなあ？

さて、ヒート制にした場合のデメリットも話さないといけないと思います。
参加できる日程で競技に参加出来るというメリットはありますが、
地方で行われるような大会に参加する必要が無くなるという事が考えられます。
ぶっちゃけ、板敷&足尾だけ出れば良いという事になるかと思えます。
極論ですが、関東で行われている月例会を大会にすると、
それだけで決まってしまうような事になってしまいますね。
もちろん、そういったものを地方でも行えば良いじゃん？ということになりますが、
そんなバラバラな状態になってしまっても良いのかなあと思います。
なので、計上できる大会の条件も考えないといけないと思いますが…。

砂：やはり、年に1回か2回くらいは委員全員が集まってルールを決めない
と誤解や勘違いが起こって、決まるものもなかなか決まらないような気がします。

さて、GAPを採用して、何年かたっているのですが、感覚的ですが何が大事か、
どういう傾向にあるか私も理解しているつもりです。
だいたい点数を決めるのは、
RaceではC distance、FSではdistance_validity の値です。
その日、飛んだ人の平均くらいの人がノーミナルディスタンスを超えていれば、
まあまあ点数が付く、といったところでしょうか。

ノーミナルゴールを20%から30%にあげると、
distance_validityは下がってしまいます。

ノーミナルゴールを20%のまま、仮に50%のゴール者が出ても distance_validityは全く下がらないので点数は低くならないはず。ゴール者が多いのに1000点が付かない場合は、トップのゴールタイムが1時間を切っていたり、遅いスタートゲートで最速タイムで飛んだ人がトップになると、リーディングポイントがあまりもらえなかったりする場合がありますよね。

たとえば50kmのタスクを組んだが、条件が渋く半数近くがぶっ飛び、数人が50km近く飛んで、10数人がなんとか30kmくらい飛んだ時にわりと高い点数が付いてしまう事に違和感を感じていました。そこでノーミナルディスタンスを30kmから35kmにすることで、少しこれが解消されると思いました。この変更でデイクオリティは下がる傾向になります。ノーミナルゴールを30%に増やすと、さらにDQは下がってしまいます。砂間はノーミナルゴールは20%のまま、に1票。

EJC、Task2は、結果的には7割方の選手がぶっ飛びました。しかし、計算上はぶっ飛んだ選手も6km飛んだ事として計算してしまうので、意外にDQが上がってしまった感があったようです。ミニマムを3kmにしておけば、ぶっ飛んだ選手は3kmとして計算されるのでDQがもっと低くおさまり、結果としてこの日の全体の点数が下がります。ミニマムを3kmと提案したのは、ぶっ飛んだ選手の点数を下げる目的ではなく、実際に飛んだ距離を反映させる為、です。確かにミニマム3kmというのは短いので、6kmのままでもよいですが、トップでも20km~30kmの争いになるような条件の日は、今回のような問題？がまた起こる可能性は残ってしまうでしょう。

参考までに、自称、世界一のフットランチエリアと言っているオーストラリアのカナングラで最近行われた大会のパラメータは、
ミニマム距離 5 km
ノーミナルディスタンス 40 km
ノーミナルタイム 1.5時間
ノーミナルゴール 20%
です。

高：昔は JHFの事務所で一同を会して会議をしたものです。意見が違ったりしても最後まで話が来てまとまったものでした。やはりメールは間違い間違いが発生してしまいます。

30%にする理由 続き

簡単に言えば、タスクを設定するに当たり、この30%を考えてしてもらえれば中々ゴール出来ない選手もゴール意欲が沸くのではないかと考えた。このあたりは、タスク設定者にもっと理解して欲しいものです。反対に 距離を伸ばした結果 20%に落ちる可能性もあるので優柔不断に20%でも良いかも知れません。譲れないのはミニマム。

次に

ログソフト、集計ソフトが変更なりますが使用方法、取り扱いを誰にもわかりやすく日本語解説を公開することにしましょう。

以上のやりとりの後、採決（投票3人、棄権2人）結果。

1. 集計ソフト : FSまたは同様のもの
2. 計算式 : GAP2002
3. ミニマム距離 : 6 km
4. ノミナル距離 : 35kmに変更
5. 同順位得点 : 平均点
6. ヒート制導入 : 今後検討していく

